

六大学リーグ終了時点での感想は？

権田 早稲田とは六大学リーグで2試合目に当たったのですが、非常に運動量が多く、バシバシ走られて、上から当たられて、こちらはあたふたしてしまい、途中追いついたのですが引き離されました。

慶應は今年4年生がごっそり抜けて、六大学リーグでは12人しかいないのに対して、早稲田はとにかく選手層が厚く、みんな上手いし、運動量もある。慶早戦に向けてこれから頑張らないとなかなか勝利というものを勝ち得ないな、という印象をみんなが持っています。

平久江 六大学リーグや春のトーナメントは、真剣な戦いというよりは、様子見というか、その年の各校の雰囲気を見るくらいで、各校練習のスタート時期も違うし、まだやっていることやってないことがあるので、結果というのは何の参考にもならないと思っています。

早稲田の場合は、今年度やっと2年ぶりに一部に戻れて、慶應の胸を借りるという立場なので、春も学生たちにとっては他の大学とやるのとは、ちょっと違った意味で一生懸命チャレンジしたのかなと思っています。年明けからずっと練習をやっていた分体力があったというだけなので、本番の早慶戦には全く違う形でぶつかっていかないと、去年まで2年間連続で負けていますので、チャレンジしていくしかないなと思っています。

慶應の場合は、今年を見ていると、クレバーな、堅実なバスケットをしているので、強いなという印象は持っています。

お互いのチームの印象は？

阪口 実は、ボロ負けすると思っていました(笑)。90対30くらいで負けるのではないかと考えていました。選手も慶應より3倍ほど多いのです。でもほどほどになっ

ているなど、慶應の学生も安心したというのですかね、そんな印象を持っていたみたいですね。まあごっそり4年が抜けたので、どうなるかなと思っていたのですが、早稲田は今勢いのっているので、丁度良い時にやらせてもらえたんじゃないか、と思っています。とにかく上手な選手がいっぱいいるので、名前がわからないくらい同じようなタイプの選手が出てくるので大変ですね。まあ、いろいろ必殺技を考えて6月25日に向かおうと練習しています。

吉岡 慶應は真面目にバスケットに取り組んでいるなど、六大学を終えて感じていますね。どちらかというと早稲田は派手、慶應は真面目・粘るという毎回真逆のスタイルなのかなと思っています。慶應は4年生が抜けて今年はどうなチームなのかなと思いつつ慶應とやらせていただきました。思った以上に「上手い選手が多い」というのが印象で、やはりシュートが上手いですね。勝負どころとか離されかけたときにしっかり決めきる選手が多いと思います。そこで、やはり今年も粘るな、早慶戦辛いなという印象を素直に感じました。

今季のチーム作りの方針は？

阪口 今年早慶戦に勝つと、通算勝数がタイになります。去年から早稲田に追いつけ追い越せっていうキャンペーンを学生中心にやっていて、早慶戦は種目関係なく勝利するとOBが褒めてくれる特別な試合なので、これだけ長い間続いているのですよね。だから、本当に早慶戦に焦点を合わせるということを言い続けています。ついにタイに並ぶチャンスなので、今日の試合は13点差ですから早慶戦当日は14点頑張る、タイに並びたいと思っています。

慶應は、昨年度の4年生が本当にごそっと抜けたので、全然違うチームにしないと、と思ってやっています。それが、早稲田の右肩上がりやをいかに止めるかというのに尽きますね。

吉岡 今年は、昨年の池田キャプテンと木澤副キャプテンが卒業して、エースって言われるポジションが抜けています。その穴を誰が埋めるのかってところで、選手たちが頑張ってくれているなという印象を持っています。

スタイルとしては、去年から引き続き、早稲田は圧倒的に小さいので、そこをどう補うのかというところで、選手たちとコミュニケーションを取りながら対応していきたいなと思っています。やはり持ち味はスピードとか選手の層の厚さであると思うので、そこを活かしながら、大きい相手を小さいやつが倒すっていう、見ている人が楽しくなるようなバスケットができればいいなと思っています。

ます。

今季久しぶりに同じリーグで戦うことになったが

権田 早稲田が、2部にいたというのが全く考えられないです。慶應が2部、3部にいてもおかしくないという時代は、過去に何度もありました。過去の慶早戦でも、2部のチームと1部のチームで2部が勝ったり、3部と1部で、3部が相当頑張っていたり。慶早戦というのが特別なものなので、同じリーグで戦うというのではなく、常に永遠のライバルだと思っていますし、慶早戦になると、学生たちも俄然燃えますし、当然OB・OGの方も燃えますので、全く別物だと思っています。

ただ、秋にリーグ戦を同じ1部で戦えるというのは、私は楽しみです。まず勢いがある早稲田を6月の慶早戦でどこまで抑えられるか、その次のステップでまた秋に向けてリーグ戦で戦っていくしかないなと思っています。

勢いをどういう風に抑え込むかというのは、阪口H・コーチが言っていましたけど、いろいろ策を練らなければいけないと、そのまま受け止めるとそのままぶっ倒れてしまうので、どうやって早稲田の勢いを止めるのか？というのがポイントだと思っています。

平久江 今権田さんがおっしゃられた通りで、やはり早稲田・慶應っていうと1部とか2部とかっていう意識ではない、別次元の早慶戦っていう、昔からそうだったと思います。

早稲田は今年1部に戻れて、秋に春の早慶戦以外にもう2回やらせてもらえるなっていう印象ですね。早慶戦になると学生も、他の大学とやるのとは全く違ったエネルギーが生まれてくるみたいで、まあ我々スタッフ・OBもそういうところがあるので、今年は年間3回公式戦としては戦えるのですが、最近の早慶戦は2回負けていて、今年は例年以上に良い戦いになるとなっています。

昨年の早慶戦を振り返ってみて

吉岡 去年は春のトーナメントが上手くいかなくて、もがきながら前期進んでいって早慶戦を迎えたという感じでした。確か前半同点くらいの感じで、競った状態で後半にいかけて、このままいけるといいなっていうところで、最後やっぱり粘られてそこから一気に離されたという感じだったので、選手とコミュニケーションを取りながら、今年はその場で一步離せるような形に持っていければと思っています。

代々木で観客席を見ると、慶應の応援の方が多くなっていると思うので、早稲田も早慶戦のPRからもっと盛り上がって、そして応援でも負けないようにしていきたい



早稲田大学
吉岡 修平 A・コーチ 平久江 卓監督

なって思っています。

平久江 昨年は早稲田のスタッフが総入れ替えになり、春先で、まだ新しいスタッフや今までのバスケットとの違いに戸惑いがある中での早慶戦でした。そういう意味では選手たちと意思疎通が徹底できていなかったもので、ちょっと戸惑いがあったのかなと思います。結果10点差で負けて、一気に後半離されてしまって。私も久しぶりにベンチに入っていたのですが、勝負どころのツボを心得ているというか、さすが1部で戦っているチームで強いなという印象がありました。

一気にいくところは全くシュートを落とさないで、外角のシュートも全部入れてきて、やっぱりまとまりがあり、すごく強い印象があって、残念ながら負けるべくして負けたなという感があるので、今年は何とか一矢を報いて勝ちたいと思っています。

阪口 試合当日はすごい雰囲気になるので、やっぱり最後は4年に勝負はかかっていますよね。去年、早稲田のリーグ戦を見ていて、やっぱり池田(昨年度早稲田主将)なんですよ。そういう4年が、うちは今年試合で活躍していた選手が多く抜けているので、去年、一昨年は4年が負ける感じがないように練習もやっていたし、浮き足立っている感じがなかったので、そういう風に試合に臨めたという感じはします。

早慶戦は一筋縄では絶対にかかない。だからどんなに競っていても、絶対に負けないぞとみんな思っていると思います。それが2年連続で勝った理由だと思っています。

権田 昨年は、「連勝しなければ」という気持ちは選手たちにもあったと思いますし、スタッフだとか、あとOBの皆さんもそう思っていて、なんとか勝率を五分五分にしたいという気持ちを持って臨んだ選手たちが頑張っ



慶應義塾大学
権田 哲也監督 阪口 裕昭 H・コーチ

てくれた結果、連勝することができたと思っています。阪口H・コーチが言いましたが、やはり思いというのがものすごく大切なのだろうと思います。4年生がどうやって頑張るかというところが結果として現れたのかなと思います。

今年は新4年生の人数は少なく、大きな声は発せず、なかなかしゃべらないキャプテンですが、心にあるものはものすごく熱い奴で、、西戸です(笑)。恐らく熱い思いを持って戦ってくれるのではないかなと、期待しています。

早慶戦で中心となる選手は？

平久江 西戸くんうちの河合も、2人とも洛南ですね。

吉岡 やっぱり4年生じゃないですか。中でもキャプテンの河合と副キャプテンの佐藤、この2人がどれだけコートでもベンチでも勝ちに対して思いが出せるか、行動できるか、練習から含めて、だと思えますね。4年生に懸かっていると思います。

阪口 まあ、西戸、後藤ですね。この2人に本当に懸かっています。

相手のチームで警戒すべき選手は？

阪口 僕は直接見ていないのですが、全員ですね。うちが1部の中ではめちゃくちゃ小さいですから、本当にどう対応するか悩ましいですね。

吉岡 僕たちも全員ですけど、今回の六大学リーグで当たってみて、西戸くん、後藤くん、サワくん、この3人は今シーズン中心になっていくのかなという印象を持ちました。後藤くんはすごくシュートが上手くて、何本も決められたので、去年の大元くん(昨年度慶應義塾副将)の3ポイントのように、今年は後藤くんが後半にくるのかなとイメージしながら見ていました。その辺はチェックしていきたいなと思っています。やっぱり大元くんすごかったですよね。

平久江 全然落ちなかったね、勝負どころで。

阪口 あいつも、もうちょっと堅実なところがあれば、もっと良い選手ですね。たまたま当たると良いのですが、外れると世にも無残な感じになるので(笑)。

平久江 4年生が抜けられたっていう話ですけど、慶應は伝統校なので、必ず次の代が育っているのです、すごいなと思いますよね。

阪口 それは本当に一緒ですね。早稲田のコーチは大変だと思います、選手がいっぱいいるから。金太郎飴のように、5人ずつ交代していけるくらいいますからね。

権田 そうなると、誰がどれくらい使ったのかかわかな

くなっちゃうのではないかって。

阪口 慶應の学生コーチから送られてきたスタッツに、早稲田の選手出場時間が書いてなかったのですよ。どうしたことなの？と。もう一回ちゃんと見て調べましたけど。まあそんな感じなんです。本当にどうするのだろうっていう。

権田 倍以上の人数の選手が、みんな実力がある選手なので、2つのチームといっぺんに試合やっているみたいだったですよ、前は。たぶん本番もそうなると思うのですけどね。うらやましい。

阪口 慶應なんて、1人怪我したら大変なことになる。

早慶戦という特別な舞台だからこそ、選手が注意すべき点は？

権田 あの雰囲気にもまれず、いかに自分たちのバスケットができるかということだけですね。やっぱり雰囲気が違うので、舞い上がっちゃう奴は舞い上がっちゃうと思います。舞い上がってしまうとアドレナリンがいっぱい出過ぎて、ファウルしてしまう選手も中には出てくるのではないかなと思うんですけど、いかに頭をクリアにして、自分たちは何をしなければいけないのかを個人が考え、それを具現化できると結果が付いてくるんじゃないかな。結局、雰囲気にもまれないように、ということですかね。

阪口 同じですね。インカレ決勝か、慶早戦か、というくらい人が集まるので、どんなに高校時代活躍してきた選手でもダメなんです、あの雰囲気は。経験したことがある上級生が頑張らないと。「俺がやってやるぞ」と思っても全然違う人になるので、あの雰囲気の中でどうやれるか、ですよ。

平久江 おっしやる通りで、アドレナリンが爆発してきますので、頑張れとか言わなくても全員が頑張っちゃう。いかにいつも通りのバスケットが、あそこできてるかっていうのが勝負になると思います。やっぱり経験というものが大きくて、阪口H・コーチが言ったように、どんなにすごい1年生が入ってきても、4年生が今まで3年間経験してきた早慶戦の雰囲気を思い出して、チームを落ち着かせるようにすることが注意する点だと思います。

ただ、逆に言えば、あんなに良い舞台は慶應と早稲田の学生しか体験できないので、ある意味、思い切り緊張して盛り上がって欲しい。良い経験だと思うので、社会に出てからはできないことなので、ぜひそれは両校共に4年生全員に良い経験をしてほしいなと思っています。

吉岡 皆さんおっしやる通りで、舞い上がらない、落ち着く、これに尽きるかなと思いますね。やっぱり、あの

舞台上に面食らう選手も絶対いると思うので、それを日頃からイメージを持って、いつも通りの行動、プレーができればいいかなと思っています。

早慶戦で注目してほしいポイントは？

権田 バスケットの楽しさという面白さ、学生スポーツの素晴らしさ、そういったものが凝縮されているのが慶早戦だと思う。実は私は昨年から監督を務めていて、私の知り合いが20人くらい来ました。バスケットを観たことがないという方が、結構いらっしゃったんですよ。「面白いのか？」と言われて、「絶対面白いですから、騙されたと思って来てください」と言って、来られた方々が、「いや～面白いね！」って言うくらい、来ていただければ面白さという選手たちが頑張っているあの雰囲気も含めて、注目しなくてもただ見ているだけで、良い雰囲気と満足感を得られると思います。

また今年も、皆さん来られると言っています。選手たちが頑張らざるを得ないような状況なので、来れば素晴らしいことがわかんと思います。

阪口 早稲田は違うかもしれないですけど、慶應は新たに小学校もできて、観客は、小学生からおじいちゃん・おばあちゃんとは言いませんけど、慶應の関係者が圧倒的に多くて、文化として慶早戦が定着しています。

その中でも選手達の不甲斐ないプレーにブーイングするなり、褒めるなりして選手達の一挙手一投足に注目してほしいなと思っています。慶應の場合は、大学生が慶應の小学校とか中学校にお邪魔して、その子達が慶早戦に来た時、あるいはリーグ戦に応援に来た時に、その大学生を応援してくれということを一生懸命言っています。それに注目して、ぜひ観客の皆さん、特に小中高生には、大学生に対して積極的に叱咤激励の言葉を掛けてほしいと思っています。

キャッチミスした時には、「バカヤロー」って言ってほしいし、走れなくなっていたら、「走れ！」って言ってほしいし、そういうことが定着していけば良いと思います。慶早はそういったことが典型なので、言葉遣いは多少無視して、ストレートに言ってほしいですね。

平久江 まさしく学生スポーツの原点という感じで、本当に子供達がお互いの、慶應・早稲田の看板を背負って、必死になって戦う姿をぜひ観てほしいなと思います。恐らく、慶應・早稲田っていうのは、どこの大学よりも学生らしいスポーツへの姿勢がコート内外であると思うのです。そういう意味でも、観客の方にはぜひプレーだけではなくそういうところも含めて感じて欲しい。学生スポーツの原点・看板を背負う自覚のある選手達は、コート外でもきちっとしているのだということも観

てもらいたいですね。来ていただければ、自ずと必死になって応援してしまおうと思います。

結果は、必ずどちらかが勝って、どちらかが負けますが、たぶん終わったら、それには関係なく、お互いの相手チームの学生にも大きな拍手をくれるような、間違いなくそういうゲームが早慶戦では展開されるので、本当に期待して来てもらえればと思います

吉岡 バスケットを知らない人に観に来てほしいと思っています。早慶戦を機にバスケットを好きになりましたとか、バスケットを観るようになりましてっていうくらい、誰でも楽しめるし、感動するものがあの空間にはあるのかな、と思います。それを選手はしっかり作り出しているなと思っているので、観客の人には、バスケットもそうですけど、選手の一つ一つの行動に注目してほしいなと思います。

学校と学校の対決なので、早慶戦を観て、早稲田もっと好きになったな、慶應もっと好きになったな、っていう自分の母校に対する思いを感じてもらいたいなと思っています。

早慶戦に向けての意気込みは？

平久江 意気込みというのは私より選手なのでしょうけど、2年連続負けているので、今年は何としてでも勝ちたいというのが意気込みです。さっきからもずっと言っていますが、それ以上に早慶戦という最高の舞台で選手たちが本当に思い切って、良いバスケットを展開して、良い経験をしてもらいたいな、と。

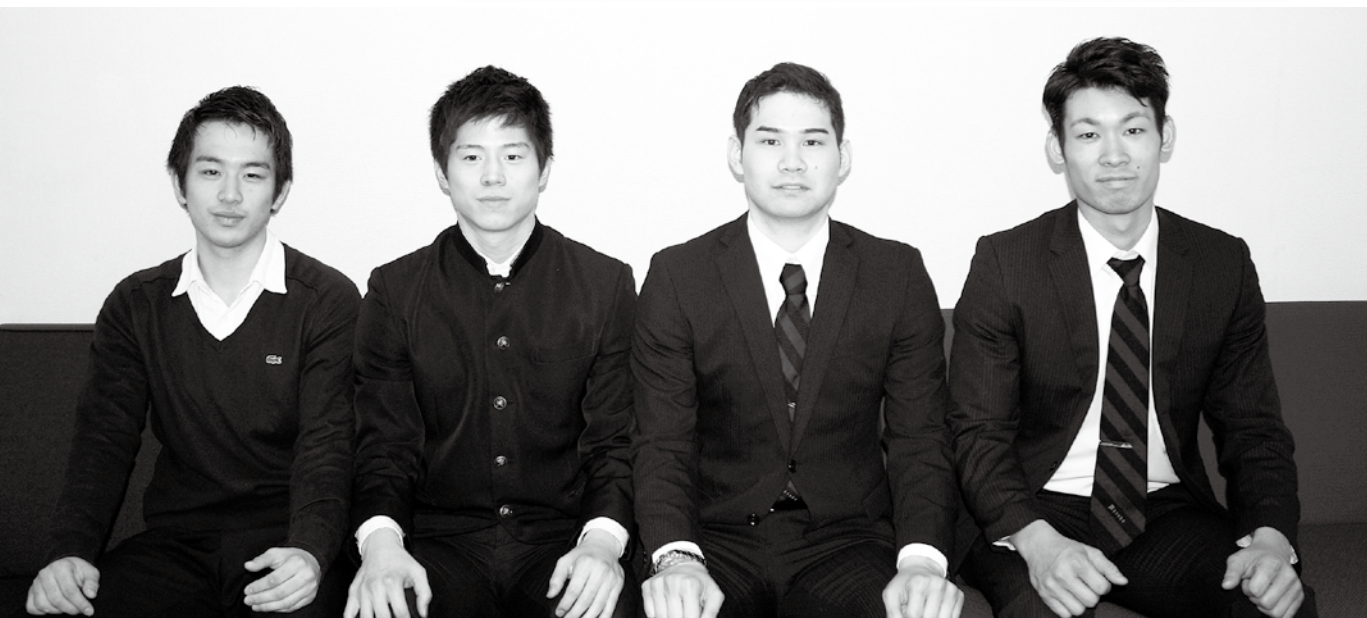
早稲田に入って良かった、慶應に入って良かったなっていう経験を、きちっと体感してほしいなというのと、お越しいただいた観客の皆さんには、必ず感動を与えるようなゲームをしたい、そう思っています。

吉岡 勝つということはもちろんなのですが、選手たちには、それぞれの大学への思いというのを早慶戦に向けて感じてほしいです。最後、勝ち負け決めるのはそこなのかなと思います。

やっぱり、早稲田を背負っている、慶應を背負っているっていうそこに対する思いを選手は感じて、母校をもっと思ってほしいなと思います。

権田 勝率をとにかく五割にまず戻すということです。

阪口 三連勝ですね。

慶應義塾大学
副将 後藤宏太慶應義塾大学
主将 西戸 良早稲田大学
主将 河合祥樹早稲田大学
副将 佐藤智也

今シーズン初の早慶戦

(第12回東京六大学リーグ3月19日)を振り返って

西戸 僕たちは昨年12月から新チーム作りを行ってきたのですが、早稲田を前にすると実力の半分も出せませんでした。とても悔しかったのですが、課題も見つかり、次に繋がる試合であったと思います。

後藤 今回の敗因は、試合の序盤に早稲田に流れを持って行かれたことだと思います。食らいつくことに必死で、プレーに全く余裕がなかったです。一方、練習で繰り返し行ったプレーの基礎部分は、早稲田にも通用すると自信になりました。慶早戦に向けて良いところを伸ばしながら、課題を修正していきたいです。

河合 僕たちにとって六大学リーグの優先順位は高くなかったのですが、慶應との試合は個人的にとっても楽しく、また5対5の実戦感覚をつかめました。

佐藤 この試合を通じて、今後のチームのスタイルが見えてきたと思います。そこには課題があり、前からディフェンスに行くにはスタミナがまだまだ足りないと感じました。もっとスタミナを強化していく必要性を感じました。

お互いのチームの印象は？

後藤 本当に選手層が厚いと思います。例年通り一人一人の「個」の能力が高いです。六大学リーグでの試合で目の当たりにして、「個」の力を伸ばし活かしていくチーム

作りを見習いたいと思いました。

西戸 自分たちに無いものを持っているチームだな、と思っています。「個」の力を持っていて、選手層が厚いですね。それに対し、比較的選手層が薄い僕たち慶應がどのように対応していかなければならないのか、しっかり考えていきます。

河合 勢いに乗ったら、なかなかその流れを断ち切ることができないようないいチームだと感じます。それに加えて、最後までボールを追い、苦しい時でも走りぬくバスケットを徹底しているところが、学生らしくて良いチームだなと感じました。そういうところが、勢いにもつながっていくと思います。

佐藤 バスケットに対してひたむきな姿勢や、タイムアウトの時選手同士が自発的に意見を出し合うなど、選手主体となってバスケットに取り組む姿勢がすごいと感じています。常にチームのことや自分のプレーなどについてよくしていこうと考えながら、バスケットをしていると感じました。

昨シーズン、特に早慶戦を振り返って

河合 昨年も一昨年も早慶定期戦は完敗だったと感じています。今年はリーグ戦でも早慶で戦うことになるので、バスケットボール界を盛り上げられるような試合にしたいと思っています。

佐藤 去年初めて試合に出た時、早慶戦は伝統がある偉

大な試合だなと肌で感じました。4年生の思いの強さが反映される試合でもあると実感しました。対戦時には技術だけでなく、強い気持ちも出していこうと思います。

西戸 去年は、辛い時先輩たちに支えてもらった、という感覚が強いです。今年は、自分たちがその役割を担いつつ、慶早戦を含めた色々な試合で勝てるようなチーム作りをしていきたいと思っています。今年は、先輩たちが積み重ねた慶早定期戦の勝ち星を早稲田とタイに持って行くチャンスなので、慶早定期戦にもしっかり照準を合わせて勝ちにいきます。

後藤 佐藤くんの言うとおりの、慶早戦は4年生の思いが勝敗に左右するほど重要だと感じています。4年生として西戸と一緒にチームを牽引し、勝利に導きたいと考えています。そのためのチーム作りをしていきたいです。

新チームの体制について

河合 早稲田の学生としての自覚を忘れずにプレーするというのを、徹底しています。昨年との違いは、チームとしての目標とともに個人個人で目標を決めたことです。どのようなバスケットボール選手になりたいか、またバスケットを通してどのように成長したいか、など個人の軸をしっかり決められたことは、今年のチームの強みです。

ちなみにチームとしてのスローガンは「臥薪嘗胆」。苦しい時は耐えて、最後までハードワークできる強いチームになろうということで決めました。

佐藤 強いチームになるには、バスケットをしているだけではダメ。バスケット以外の部分でも成長していかなければいけないと思っています。今年は、それをチームの目標としても掲げています。

西戸 ディフェンス・リバウンド・ルーズボールという、特に強かった年の慶應の3つのキーポイントをおさえつつ練習に励んでいます。厳しい時や苦しい時にこれを心がけることが、勝利につながると考えています。まずはこの姿勢作りから新チーム作りを始めています。



後藤 応援されるチーム・学生らしいチームという伝統を守りながら、自分たちの色を出せていけたらと思います。そのための話し合いを、日々全体で行っています。

オフの日の過ごし方

西戸 オフは無いですね。今は本当に就活が忙しいです(笑)。バスケットと両立している感じです。

後藤 僕は、愛犬家ですよ。皆さんには、ギャップ萌えがあるかもしれないですね(笑)。家の中でいろいろバスケットのことなど考えながらも、トイブードルの「ゆず」と過ごす時間が至福の時ですね。

河合 ゆっくり体を休めます。本でも開いてみようかなと思うのですが、閉じちゃうことが多いです(笑)。特に皆さんと変わるような特別なことはしていませんよ(笑)。

佐藤 就活ですね(笑)。基本アクティブなので、外に出たりすることが多いです。映画を見に行くことも大好きです。最近では『オデッセイ』を見ました。

後藤 (佐藤くんと)この前遊びましたよ。楽しかったです。

佐藤 楽しかったね。

河合 (西戸くんを指して)僕たちは高校の同期なので、高校の同期と一緒に集まることかもあります。

西戸 いい時間ですよ(笑)。

早慶戦への意気込み

西戸 先輩たちの思いを引き継いで、絶対に勝ちたいです。

後藤 慶早戦というみんなが熱くなる試合に勝って、色々な人々と喜びを分かち合いたいです。

河合 いろいろな人の期待を背負った試合なので、皆さんの期待に応えられるような試合展開をし、二年越しの勝利をつかみ取りたい。

後藤 伝統を継承しつつ、絶対勝ちたいです。

佐藤 早慶戦という最高の場でプレーできることに感謝して、勝って会場を沸かせたいです。



慶應義塾大学

早稲田大学

高橋晃史郎

木村能生

トカチヨフサワ

新川敬大

森井健太

石原卓

新体制になって初の大会

(第12回東京六大学リーグ戦)ですがいかがですか？

石原 今年から「走るバスケット」ということでスタイルを変えて取り組んでいますが、これまでの練習でも5対5の実戦形式ができていなくて、なかなかイメージが沸かなかったです。でも今日、慶應と試合して1Qからガツガツ走れたり当たれたりできたので、手応えを感じられて良かったなと思います。

高橋 慶應もモビリティとって、走るバスケットを目指していますが、今日の試合では早稲田に結構走られてしまったので、走力に関しては今後の課題になるなと思いました。

サワ あと早稲田は選手層が厚くて、僕と高橋が出ている間にどんどん元気な選手が出てくるので、こっちとしては、「まじか!？」っていう感じです。

高橋 ズルいです(笑)。



サワ だから僕たちはモビリティを意識しつつ、いかに少ない人数で戦っていくのか?ということが、大事になってくると思いました。

選手層の厚さということに関して

早稲田の皆さんはどう思いますか？

森井 ガード陣は層が厚いと思います。それぞれ持ち味が違う中でそれを出せているので、そういうところは良いと思います。

石原 5人でプレーしたら途中で絶対ばてますが、交代しながらやれば常にフレッシュな状態にできるので、選手層が厚いことによって走るバスケットができています。

新体制になって変わったことはありますか？

新川 早稲田は、特に変わったことはないと思います。

石原 いや、あるだろ!(笑)。

新川 まあ、チームスタイルとかは変わりました。

高橋 慶應は、変わりまくりですね(笑)。昨年までは学生主体でやっていたのですが、今年からヘッドコーチがチームを引っ張っていくというスタイルに変わりました。

サワ あとはここにいる3人だけなのですが、相撲部に稽古にも行きました。下半身強化のためですね。

どんな練習を？

サワ まずは土俵に入って、四股を30分間くらい踏むのです。ちゃんこも振る舞っていただいて、とても有意義な

時間を過ごさせてもらっています。

今季チームの目指す方向性というのは、現段階でどのようなものなのでしょうか？

新川 早稲田が今季目指すのは、1部の中で攻撃回数が最も多いチームになることです。

サワ なんか、かっこいい(笑)。

高橋 慶應はまだ漠然としているのですが、今の段階ではとにかく走るチームというのを目指しています。本当に理想としているのは、ゴールデンステート・ウォリアーズです。

サワ そのためには、僕ら3人が引っ張っていかないといけないと思いますし、期待されているというのも実感します。

新主将に対する印象は？

石原 森井と河合さんが高校のときの先輩後輩です。

森井 河合さんは、しっかりしていますね。結構いじられることもあるよね？

石原・新川 うん。

森井 真面目なところは真面目で、ふざけるときはふざけるので、本当に良い人だなと思います。

サワ 西戸主将は、ストイック!

高橋 前主将の福元さんは、割と言葉でもプレーでも見せてくれた部分があったのですが、西戸さんはプレーで引っ張ってくれるタイプなのかなって、僕は思います。すごく静かな人です。

サワ 西戸さんは、自分がしっかりやっているからこそ、言葉に重みがあるというか説得力があるので、もう非の打ち所がないキャプテンです。

新川 河合さんとは一時期ウエイトをペアでやっていたのですが、すごく真面目な人で、オンとオフの区別がしっかりしていると思います。

チームの雰囲気はいかがですか？

石原 早稲田は、たまに練習中とかテンションが落ちてしまうときがあって、そういうのをなくしてわざとテンションを上げていこうという話をしているので、練習中の雰囲気はすごくいいと思います。

サワ 練習中は、第三者の目というのをすごく意識しています。慶應ってプレーヤーと同じくらいスタッフの人数がいます。だから練習を見ている人たちのアドバイスとかがすごく大切で、それを素直に受け入れて行動に移すということを意識して今は練習に取り組んでいます。たとえそれが自分の中では違うのではないかと思っても、一回やってみるということをみんな実践しています。

木村 4年生は、元々人数が少ない上に就活などで休むこ



ともあって、練習中の人数が少ないので、そういう時にどう練習をするか、というのをみんなで考えてやっています。

サワ 僕らの練習は5時間程で、その中でたくさんのメニューをこなすので、練習が終わる頃にはみんなもう仏みみたいな顔になっています(笑)。

石原 逆に早稲田は、いま大学の体育館が工事中で使えないので、高校の体育館を借りて練習しています。短い時間の中でどれだけ内容の濃い練習をできるか、というのが大事になってきますね。だから量より質っていう感じです。

サワ 僕らは、量も質もです。

一同(笑)。

サワ スタッフの人がたくさん指摘してくれるので、質はかなり良いと思いますね。感謝ですほんと。

お互いのチームの印象は？

新川 真面目。

森井 速くて、たくさん走り回って、シュートがうまいので結構やっついて疲れます。

木村 層が厚いのと、雰囲気が良いので楽しそうです。僕らが楽しくないって訳じゃないですけど、雰囲気がすごく明るいなって思います。

サワ あとやっぱり勢いがありますね。優れたシューターもいますし、彼らを生かす巧みなガードもいるので、非常に怖いチームです。あまり当たりたくない。でもいざ当たると、闘志沸きますね(笑)。

高橋 一人一人がとてもうまく、個性も出ていると思います。似たタイプの選手がいないというのは、すごいと思いますし、正直やりにくい相手だなと思います。

この6人の関わりなどはありますか？

石原 特にないですね。

サワ ないです。

石原 みんな「初めまして」です。

一同 (笑)。

石原 実際は、(石原・新川・サワは)東京の高校なので対戦していました。

新川 中学のときも戦っていました。

石原 それでいつも、勝っていました。

サワ 負けていました(笑)。

石原 だからこの3人は、結構仲良くしていました。今はあまりないです。これから増やしていきたいと思います(笑)。

森井 (木村は)東山高なので試合していました。

高橋 まあ僕は…、こっちが一方的に知っているくらいです(笑)。

新川 一回U-18の合宿来なかった？

高橋 そうだ。合宿で一回一緒になりました。

オフの日の過ごし方は？

石原 やっぱり練習で疲れているので、僕は映画を観るのが好きなのでよく観ています。

新川 みんなでボーリングに行きます。

石原 ずっと、ボーリングしています。ボーリング部っていうのがあります(笑)。みんなでご飯行ったりもします。

新川 僕、ボーリング部です。

森井 僕は、すごくボーリング弱いので(笑)。

サワ 僕らもご飯食べに行ったりとか、最近高橋とよく遊んだりします。

高橋 まあでも、オフの日にバスケット部で集まろうみたいにはあまりならないです。

サワ やっぱり貴重なオフなので、それぞれやりたいことをやるって感じですね。

昨年の早慶戦を振り返って

石原 僕たちは1年生のときに日吉でやって、そのときは慶應の応援がほとんどで早稲田は少ししかいなかったのですが、去年は代々木で半分ずつくらい応援がいたので、試合というよりお祭りのように感じました。ああいう雰囲気の中で早慶戦というのが初めてだったので、去年は少しだけあがっちゃいました。

新川 去年は僕のせいで負けました…。

石原 0点？

新川 0点。

石原 あ、これはもう新川のせいです。

一同 (笑)。

森井 楽しい雰囲気なのですが、1年のときも2年のときも負けているのであまりいい思い出はないですね。4年生が泣いていたので、勝たせてあげたかったなというのは思います。

高橋 去年の慶早戦は、早稲田のこの3人は出ていたのですが、僕らの代はサワしか出ていなくて、ベンチで見ているときには「来年この舞台に立てるのかな」という不安がありました。それでも先輩や後輩、同期が頑張ってくれて、すごく大きな1勝ができたと思います。

木村 去年コートの外で見えて、日吉とは違う、代々木でやる慶早戦の熱気とかを感じていました。

サワ 僕は、慶早戦が大好きですね。人から応援されてバスケットをここまでやってきて、応援されているから頑張ろうという気持ちが大きくて、それが自分の活力にもなっています。

慶早戦という舞台になるとめっちゃくちゃ応援してもらえるので、もう疲れたなんて言っていられないです。めっちゃくちゃ頑張れます。その特別な空間が、本当に好きですごく憧れていますし、特にバスケットほど盛り上がる慶早戦はないと思います。だから本当に、バスケット関係者以外の方にも観に来ていただきたいです。

早慶戦でキーマンとなる選手は？

石原 キーマンは絶対に新川です。去年は、こいつができてなくて負けているので、こいつができれば勝ちます。

サワ 慶應のキーマンは僕たち3人です。

石原・新川・森井 お～。

サワ これは僕らが決めたわけじゃなくて、他の人から「お前らの頑張り次第だ」ということをたくさん言われ続けているからです。特に、早稲田はセンター陣が不足していて、インサイドの戦いでいかに勝つかというのが重要になってくると思うので、そういう意味でも僕ら次第ですね。

最後に早慶戦に向けての意気込みをお願いします

森井 2年間負けているので、絶対勝ちます。

石原 連敗しているので、勝つだけじゃなくて“圧勝”します！

新川 2年間負けているので、今はチームのためにもそうですけど、学校のためにも勝ちます。

高橋 僕は、高校のときからすごく憧れていた舞台なので、そこで試合できるということに、OBの皆さんたちにも感謝して、絶対に勝ちたいと思います。

木村 2年間見えてきて、先輩たちに勝たしてもらったという印象が大きいので、今度は自分たちが、上級生として引っ張っていくような慶早戦にしたいと思います。

サワ 応援してくださっている方々への感謝の気持ちを込めて、慶應らしいルーズボールだったりリバウンドだったり泥臭さというのを出せば、それが勝ちにつながると思います。もう最後は気持ちだと思っているので、気持ちで勝ちます！



慶應義塾大学

早稲田大学

澤近智也

原 匠

鳥羽陽介

濱田健太

長谷川暢

岡野佑紀

新体制となって初の大会

（第12回東京六大学リーグ戦）ですがいかがですか？

鳥羽 慶應は、インカレが終わってすぐに新チームが開始し、モビリティということ意識してここまで取り組んできました。これまでの練習の成果もあって、自分たちがやろうとしていることが少しずつ出てきたかなという印象があります。まだまだ改善すべき点とかはたくさんありますが、試合を重ねるごとに良い方向に向かっているのではないかなと思います。

原 去年は、試合にほとんど出る事が無かったので、新チームになってからの3試合は、個人的にも通用する部分としない部分というのがありました。まだ早稲田とは差があると思いますが、そこを慶早戦までになんとか食らいついていけるようにしたいと思います。

澤近 さっきも言っていたのですが、モビリティの部分で少しずつ練習の成果が出ていると感じます。ただ、個



人的には激しいプレッシャーをかけられたときに、もうちょっと落ち着いてプレーするようにしないといけないなど。それができるようになれば、もっとプレータイムが増えるし、さらに余裕を持ってプレーできるようになると思っています。

長谷川 去年4年生の活躍のおかげで1部に上がることができて、今シーズンは1部でプレーするのですが、早稲田の方向性としてディフェンスから走るというのを目指しています。今大会中の試合を振り返っても、とてもいいスタートが切れたと思っています。

岡野 自分はケガをしていて客観的にチームを見る機会が多く、思うことは、チームのスタイルは確立できているのですが、まだ精度の部分でムラがあるように思えるので、そこを少しずつ試合経験を積みながら上げていけたらいいと思っています。

濱田 今年は、試合のテンポを上げることを意識していて、そのためにオフシーズンも結構走り込んだり筋トレしたり、土台をつくるということをしっかりやっています、その成果が出てきていると思います。あとは、精度の部分はどう上げていくか、というところだと思っています。

お互いのチームの印象はいかがですか？

濱田 慶應は、今年はシュートを早めに打つだとかそういうところでオフェンスのリズムを変えてきているなどという印象です。慶應と試合したときは、お互いシュートを早めに打ってすごく早い展開の試合になっていて、目

指しているところが似てきているのかな、という印象でした。

岡野 僕が感じたのは、慶應は去年と変わらず体が強くなっていうことで、リバウンドやルーズボールのところで結構負けてしまう場面が多くあるので、早慶戦で勝つためには、そこを早稲田がもうひと段階上げていかなければならないと思います。

長谷川 どちらかというと慶應の方が今年は主力が抜けて、早稲田は去年から試合に出ている人が多いのですが、相変わらず粘りとかどこまでも食らいついてくるのはさすがだなと思いましたね。

澤近 早稲田は、結構激しくプレッシャーをかけてくるイメージで、昨日の試合でも何度かターンオーバーしてしまって、そこからドライブ決められたり、スリーポイント打たれたりして、最初それで早稲田にペースを持っていかれてしまったと思います。

原 単純に選手層の厚さの違いというか、何人メンバーが代わってもレベルが落ちない。やっている側からすると相当しんどいというか、次々に元気な人が出てくるというのはやりにくいし、メンタル的にくる部分もありました。それでも6月はやり切らないと勝てないので、走り込んで対策を練ってやらないといけないなという印象を受けました。

鳥羽 今も言っていたように、本当に層が厚いというのが第一印象です。ひとりひとりが自分の役割を果たそうということが徹底されていて、ディフェンスもコート全員でしますし、失点しても次早い展開で決めにいこうという意識が全員にあるので、すごくいいチームだなと思いました。

この6人の中で接点などはありますか？

鳥羽 僕と濱田は同じ福岡県の高校で、地区大会から県大会までずっと対戦するような間柄で、お互いキャプテン同士という関係です（笑）。

長谷川 高校のときの代表（U18日中韓交流試合の代表）で、4人（長谷川・岡野・濱田・鳥羽）でプレーしたことがあります。

オフの日は何をしますか？

濱田 鳥羽くんを、結構ご飯に誘っているんですけど…

鳥羽 いや、1回しか誘われたことないよ！（笑）。

濱田 全部断られて…。行くって言うといつ「あ、やっぱり無理だわ。」みたいな。その辺でちょっと不満がありますね。

鳥羽 それは申し訳ない（笑）。1回はマジでドタキャンしたことがあります。



一同（笑）。

岡野 僕は、同期の菅と仲が良くって、なぜか待ち受け画面も菅くんです（笑）。

長谷川 ふたり怪しいです。

一同（笑）。

岡野 いや、まあ何もありません（笑）。

尊敬する先輩はどなたですか？

原 僕は、もう卒業してしまったのですが中島さんという方で、自分が出場機会に恵まれないときや、思い悩んでいるときに声をかけて下さったりして、おかげで踏ん張って頑張れたなというのがあって、中島さんを尊敬しています。

鳥羽 僕は、前キャプテンの福元さんです。高校も直接被ってはいないのですが高校の先輩でもあって、言葉数はすごく少ないのですが背中から引っ張ってくれるキャプテンというか、すごく頼りになる先輩で、僕もあのような先輩になりたいなって素直に思いました。

長谷川 僕は、3年の南木さんで、最寄り駅が隣でいつも一緒に帰ったりとかして（笑）。1年生のときはずっとBチームで、2年生になって新人戦で頑張ったところからリーグ戦とかにも出るようになり、すごく刺激を受けていて尊敬しています。

澤近 僕は3年の高橋さんで、結構オフの日とかも一緒にご飯食べに行ったり、温泉行ったり色々面倒を見てもらっていて、プレー中も声かけたりしてくれるので尊敬しています。

岡野 僕は、去年卒業した山本純平さんで、純平さんはインサイドの選手ですが、内外問わず非常にクレバーな選手で、僕も将来的にはそんな選手を目指して頑張っていきたいなと思っています。

濱田 僕はいっぱいいるのですが、一人挙げるとするなら去年卒業した池田慶次郎さんですね。自分は去年ベンチ入りさせてもらって、リーグ戦でベンチから見ているときに、ピンチになってチームの士気が下がると声をか

けているのはいつも慶次郎さんでした。プレーでも大事なところでスリーを決めるのはいつも慶次郎さんだったので、チームを常に引っ張っていく姿というのは尊敬できるものがあります。

今年一番活躍しそうだと思う選手は？

長谷川 これはやっぱり濱田です(笑)。濱田が試合に出て、勢いに乗るか乗らないかというのは、今年は大事になってくると思います。

原 うち、まあ鳥羽ですね。

一同 (笑)。

原 ここの戦いで、勝負が分かれるかもしれないですね。

濱田 僕は、森井さんだと思います。すごくクレバーな選手でパスがうまくて状況を打開できる選手で、パスが回らないときは自分でフィニッシュまで持ち込んでしまうような爆発力を持っているので、森井さんの活躍が必要不可欠だと思います。

鳥羽 僕は、キャプテンの西戸さんだと思います。西戸さんは、去年からスターターとして試合に絡んでいて、試合経験も豊富でし得点能力も高く、なんでもできます。でも今年はキャプテンになって、チームを引っ張っていかなければいけない立場となって、周りのことも気にしながらプレーしていかなければいけないので、その意味でもチームが成長できるカギかなと思います。

去年の早慶戦を振り返っていかがでしたか？

鳥羽 初めての慶早戦で、先輩から慶早戦ってすごいっていうことしか聞いていなかったです(笑)。実際ゲームになってみると、高校の全国大会とは一味違った印象で、高校のときはすごい人が入るのですが、結局自分たちを応援してくれる人は少なく、でも慶早戦は半分以上自分たちを応援してくれるっていう異様な空気なので、すごく緊張した覚えがあります。

濱田 自分たちが思っていた以上に互いのライバル意識というのがあって、応援でも激しい雰囲気を感じました。やっぱり前評判よりも、気持ちの強い人が良いプレーをするという印象があって、気持ちと気持ちのぶつかり合いみたいな部分があったと思います。

岡野 早慶戦は、4年生の思いがすごく強いなというのを感じました。慶應が勝ったのは、去年の4年生の活躍がすごかったからだと思うし、それに食らいついたのも、早稲田の去年の4年生が勝負どころで決めていたからだろうし、4年生の早慶戦にかける思いは、僕らとはちょっと違うなというのを感じました。

原 似たようなことになりましたけど、慶早戦というのは

気持ちの入る試合だということを聞いていて、実際に去年応援する側として見ても一本シュートが決まるだけで会場の半分がドカーン！と盛り上がり、応援する立場からしてもすごく気分が高揚しました。次は絶対この舞台に立ちたいと思いました。

長谷川 どの試合に比べてもやっぱり早慶戦は違うなというのは感じて、去年の敗戦はチームにとって相当ショックなことでしたし、早慶戦にかける思いは早稲田も慶應もそれぞれ強いものがあると思いました。今年は勝ちたいです！

澤近 慶早戦は、独特の雰囲気の中でやらないといけないですし、4年生の思いというのは強いと思います。今年もお互い4年生の気持ちは相当強いと思うので、下級生としてどのように支えていくかということを考えて、今年の慶早戦に臨みたいと思います。

最後に意気込みをお願いします。

鳥羽 勝ちたいです。

濱田 自分にできることをしっかりやって、勝ちたいです！

原 気持ちでは負けないように、しっかりと勝ちたいです！

岡野 去年はベンチからただ負けるのを眺めていたので、今年はコートに立って勝てればいいなと思います！

澤近 自分の役割を果たして、勝利に貢献します！

長谷川 そうですね。まあ試合に出られるか分からないのですが、楽しみたいです。





早稲田大学

主将 田村未来

慶應義塾大学

主将 中村実里

早稲田大学

副将 中村和泉

慶應義塾大学

副将 石原早織

昨シーズンを振り返って

石原 慶應は、なんといっても3部復帰を果たしたことが、歴史に残るような出来事だったと思います。私達が入部した時にはすでに4部だったので、久しぶりの昇格でした。

田村 昨シーズンは、主力メンバーの怪我が続いてしまって、最後までベストのメンバーで大会に出場することが出来ませんでした。悔しい結果に終わることが多く、悔しさや後悔が残る1年となりました。

中村(和) シーズンが始まってすぐに本橋前主将が怪我をしてしまい全員で戦ってなんとか優勝することが出来ました。ですがインカレが終わってから、萩原コーチが辞めることを聞いたりして、色々なことがあった1年だったなと思います。

石原 実は、慶應も岩崎コーチが退任されました。とても素晴らしいコーチだったのですが、シーズンが終わったらサッと行ってしまいました(笑)

新チーム発足からここまですべてを振り返って

中村(実) 今、コーチが居ない状態で、学生だけでやっている感じです。

石原 なので、今は試行錯誤しながらやっている段階です。練習のメニューも自分達で作っています。

田村 自分達もコーチが交代し、前アシスタントコーチが練習を見てくれることになりましたが、結構選手主体にしようということになって、ミーティングも選手だけでやったり、自主性を持って活動出来ていると思います。また、ユニバーシアードの合宿に行ったメンバーが、他大学

から良い刺激を持って帰ってきて、それが部内に広がって、学生同士でも厳しい練習が出来ています。これを続けていければと思います。

主将・副将に就任して感想は

中村(実) コーチが居なくなって、試合中の選手交代やタイムアウトを自分達でやるようになって、そこが凄く大変です。私もみんなと同じ選手なのに、上から言わなければいけないという心苦しさもあります。

石原 私自身はバスケットを始めたのが遅かったということもあるけど、言われたことをひたすらやり、それで「上手く出来たから使おう」みたいな感じで使われてきた選手だったので、「自分で考えて何かやる」ということが初めてで、大分中村に頼り過ぎていたところはあります。「ちょっとだめだな」と最近は悔やんでいますね。

田村 自分はあまり以前と変わらず、昔から出しゃばるタイプなので、キャプテンになってもそのままですね。ですが、私生活とかバスケット以外の面でチームメイトに気を配るようにはなりました。

中村(和) 私も田村と一緒に、副将になったからということでは変化は無いですけど、上に先輩が居ると居ないのでは、責任感が違うなということを最近ひしひしと感じています。

チームの雰囲気は

石原 自分達がイメージしていたのは、暗い練習ではなくて、みんなが声を出して常に盛り上がって練習している状態だったんですけど、それには全然届いてないと思

います。みんな自分に集中し過ぎていて、周りが見えていないですね。

中村(和) 私達はユニバーシアード組が帰ってきて、大分変わったかな。

田村 新チームが発足してから今までは、自分達なりに頑張っている「つもり」だったんですけど、合宿に行って、頑張る理由は他大学に勝つためということに気付いて、その勝つための基準にはまだ達していなかったですね。早稲田の基準で頑張るのではなくて、もっと広い視野を持ってやるべきだと皆に話しました。そこから練習中の雰囲気が変わって、(合宿は)良いきっかけだったと思います。

中村(和) 明らかに合宿から帰ってきた4人は、練習中の体の当たりの強さや、意識の高さが違いましたね。それが、合宿組以外のメンバーにも良い影響をもたらしていました。

オフの過ごし方

石原 部活がなくても、部の同期には会いたくなっちゃうタイプなので、みんなでご飯行ったりしています。週7回会えるなら7回会いたい感じです(笑)。バスケット部LOVEです(笑)。

中村(実) 私は文学部ですけど、同じ学部には気の合う人があまり居ないので、ここしかない、という感じです(笑)。
中村(和) 田村は結構顔が広いから、色々な大学の人と遊んだりしていると思います。

田村 バスケット部であまり過ごさないよね? オフはオフという感じで、遊ぶとしても一人二人で、みんなで行くのはたまにですね。オフは、皆それぞれ好きなことをしています。

昨年の早慶戦を振り返って

石原 毎年コテンパンにされているイメージですけど(笑)。去年は、ぎりぎり100点取られず、慶應側では大健闘という感じでした(笑)。得点を二桁に抑えたのは7年振りくらいで、ちなみに98点か99点とかだったので、残り2分くらいは「絶対一本も取られちゃだめだ!」という感じでした(笑)。なんとか終わった時には、すごい盛り上がりでしたね。

中村(実) 代々木体育館で試合が出来るので、良い経験でした。

田村 自分達も一緒に、満員の代々木体育館で試合をやらせて頂いて、そんな機会はなかなか無いのでとても楽しかったです。あと、普段試合に出られない選手もみんな試合に出て楽しそうにプレーしていて、本当に自分達は楽しくやらせてもらっています。

一大観衆の前でも緊張しないタイプか

石原 私は、結構緊張しやすいですけど、早稲田さんとやる時には自分の眠っている力が目覚めるような感じがします(笑)。普段やったことのないステップからのシュートが、入ったりしますね。緊張するというよりは、普段以上の力を引き出してもらっています(笑)。

田村 去年は、慶應さんのスタートが良くて、焦った記憶があります。

中村(和) 毎回、慶應の中村さんがスリーポイントを決めるので、「あそこ、止めろ!」って毎年怒られている気がする。

田村 うん、確かに(笑)。

お互いのチームの印象は

石原 結構ファンですよ! 私達。応援とか行って、一昨年のインカレの決勝も練習終わりに急いで見に行きました。そういった憧れがあります(笑)。他の大学だと強いだけのチームですが、早稲田さんは強いのにみなさんスタイルも良くて、オシャレで、そういうところが好きですよ(笑)。

田村 慶應さんは、品があるイメージがあって、試合中とか他の大学が盛り上がっている時も、慶應さんは品がある態度を取っていますね。

中村(和) 早慶戦で試合をするたびに年々レベルアップしている印象です。3回戦いましたが、毎回、「あ、強くなってる」と思われます。

田村 早慶戦のあと、「慶應、今年(リーグ)上がるよ」って思っていて、本当にその通りになりましたね。

早慶戦への意気込み

中村(実) チームとして、50点取れるようにしたいです。自分達で試合を作っていくかといけないので、とにかく盛り上げて、そういった雰囲気作りを自分からやっていきたいと思っています。

石原 チームとしての目標は今年も100点ゲームにならないように、失点を二桁に抑えることです。あとは、走る速さなら早稲田さんとも張り合える選手が何人か居るので、速攻とか一本決められるように、頑張っていきます。

田村 怪我をしないことが第一で、さっき慶應さんに憧れと言ってもらえたので、そういった憧れられるチーム作りを引き続きやって、大観衆の中でも格好良い早稲田を見せられるように頑張りたいです。

中村(和) この対談を通じて、お互いチーム事情が似ていると感じたので、お互い今やっていることを全部発揮出来たらなと思います。